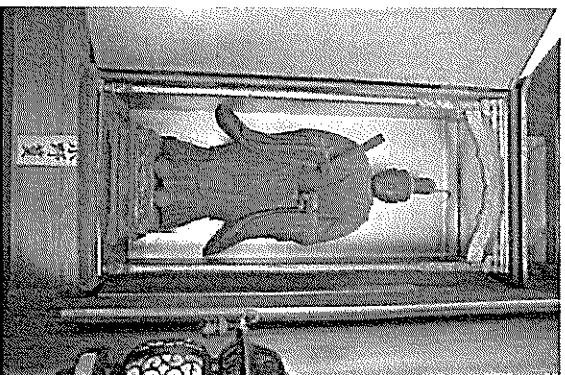


わたの原 八十島かひけて こそいでぬと  
人には告げよ 海人の釣船

平安初期の嵯峨天皇時、有能な廷臣であった篁は、遣唐副使にも選ばれたが、上司の大使と静いを起こし、病と称して乗船を拒否、嵯峨天皇の逆鱗に触れ、隠岐島流罪に。この歌は、その流される憂目の船上で歌ったもの。配流で憔悴しきったと思いきや、「吾は今、大海原の多くの島々に向ってこぎ出して行くのだ。心配するな、元氣だと皆に伝えてくれ」と意気軒昂、なぜかあつちからかんとした爽快感さえ感じとれるのである。



程なく赦され、帰還後は、とんとん拍子に出世、「野相公」。相公とは参議の唐名で小野参議と称され、直情径行の性格とも相俟って「野狂」とも呼ばれた。父岑守の血筋を受け、漢詩文の才に恵まれ、書にも秀でていたという。また仏師の彫塑にも励み、今日京都に伝えられている六地藏巡りの各所の地藏は、篁が自らの病の快癒に感謝して、桜の木から六体彫り上げたものが起源という。

この人ほど異能な怪奇な説話をのこした人も珍しく、若い頃、義理の妹に詩文の手ほどきをしているうち相愛の恋におち、遂には身籠らせ、死に追いやる羽目に。古今集の「妹のみまかりける時よめる」という詞書のある、“泣く涙 雨と降りなむ 渡り川

水まさりなば 帰り来るがに”

悲しみで泣く涙が雨となって三途の川をあふれさせれば、それによって妹も、この世に戻ってくるからという意の歌を詠んでいる。このことから、篁は三途の川がある冥界を知り、更には閻魔大王とも親しくなり、大王から授かった「お精霊迎え」の法儀が東山の珍皇寺や上京の千本閻魔堂に毎年伝えられていることにもなるのである。珍皇寺には偉丈夫であったという六尺有余の等身大の像が、また閻魔堂には両袖を風になびかせた、やや小ぶりな木像もある。

北区の柴式部のもと云う墓の傍には、篁の墓と称されるものがあるが、これは平安後期より不埒な恋物語を書きまくって地獄に落ちた柴式部を救い出したのが墓で、以後傍で見守っているのだ、と穿った伝にもなっている。

【小野篁像は大本善寺蔵】  
(日本かるた院本院 河田久章)

### 京都学ポインツスン4

お盆の頃の京都の行事について

8月7日～10日はお盆の入りで、珍皇寺では高野原の葉で水塔婆に水をかけ供養し、迎え籠を撞く。これを(1)と言うが、珍皇寺と大谷本願への参詣を見込んで、五条坂一帯ではお土産用として露店を出す(2)が行われる。

(3)では8日～10日に空也上人 以来の伝統行事として、灯明を人形文字「大」の形に点灯し、先祖の精霊を迎え折替する。そして8月16日嵐山では徳林寺で法要の後、大堰川に供養の名を記した紙灯籠を浮かべ、(4)が行われる。その日は京の夏を代表する盂蘭盆会の行事(5)で、午後8時に東山・大文字山の「大」の字が点火されると、妙法、船形、左大文字、鳥居形と順に西へと点火される。

平安時代初め(6)は一度息絶え、冥土に赴き、地藏菩薩を拜して冥土から甦る。一本の桜の木から六体の地藏菩薩像を刻み、木幡の里(7)に祀る。後白河法皇の勅命を受けた(8)は西光法師に命じ、街道の入り口に六体の地藏菩薩像を配り、これにより庶民に地藏信仰が広まる。

室町時代には22日～23日に京の(9)の風習が始まったとされる。そして京のお盆の行事として忘れてはならないのが、23日～24日の化野念仏寺の(10)である。8千体にも及ぶ石仏がろうそくの炎に輝ぶ姿は幽玄でもあり、夏から秋への風物詩となる。

恋塚浄禅寺は北面の武士、遠藤盛遠(後の文覚上人)が同僚の妻、袈裟御前に横恋慕した物語の舞台。これを題材にした映画(11)は、1954年カンヌ国際映画祭でグランプリを受賞している。

(12)菩薩はお釈迦さまがなくなった後、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六道に迷う一切の衆生を救済するよう、お釈迦さまが委託された仏さま。また(13)は六地藏尊発祥の地で、重要文化財に指定されている地藏菩薩像が安置されている寺院。  
8月22日の京の六地藏めぐりの夜に、地藏寺と上善寺では(14)が奉納される。

### 編集後記

編集方針を京都中心とすればするほど、マニアックになり、知識としてもついでに行けない。一方会員の学びの成果を積み上げていく方向としても、編集上はなかなか難しい。結局、素人としての限界を知り、それを楽しむ誌面作りの中で、会員相互の知恵に頼って進めていきたい。

\*\*\*\*\*

ポイントレッスンの答： (1) 六道まいり (2) 五条坂輪廻祭  
(3) 六波羅蜜寺 (4) 精霊送り万灯流し (5) 五山送り火  
(6) 小野篁 (7) 大善寺 (8) 平清盛 (9) 六地藏めぐり  
(10) 千灯供養 (11) 地獄門 (12) 地藏 (13) 大善寺  
(14) 六斎念仏

第5号 NPO法人 京都観光文化を考える会 平成21年8月1日発行  
 発行人:坂本孝志 編集人:林 義夫  
 発行所:京都市上京区 下立売通新町西入 京都府庁旧本館2階  
 電話:075-451-8146

都草 MIYAKOGUSA

都草だよ

京のお地藏さん...

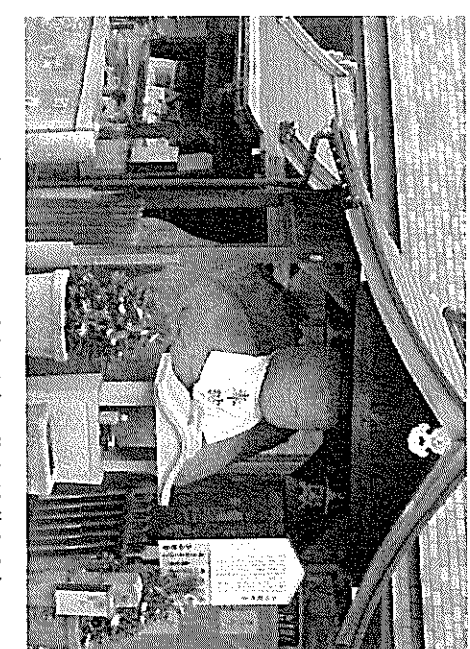
来た道、目指す道

桓武天皇に始まる平安の御世は天皇の権威が確立し、律令制の再興が都の繁栄を支えていた。その平安初期の仏教は藤原一族の世になっても天皇や貴族のものであった。当時、永承7年(1052)から始まるとされた末法思想に捉われていた多くの人々には、密教僧の加持祈祷の秘法だけでは救済されなかつた。このような時に各地に反乱がおきその平定で平氏が台頭した。この武士の世の到来は、日々の戦いに新たな生死の苦しみを生むことになり、そして極楽浄土への道のりが遠のくことでもあった。人々にとっては、従来の仏教と違ってより現実的な利益(ウヤク)を生む仏(ほとけ)が強く望まれた。そして平氏一門が東国から地藏一佛信仰として都に持ち込んだ地藏尊は、地獄での代受苦の菩薩として武士にも庶民にも受け入れられた。この衆生救済の菩薩は聖と呼ばれた天台の修験道たちによって、全国に広まっていた。平安後期、天皇の復権を企てて、半世紀もの院政を執った白河上皇、鳥羽上皇などは、源氏と平氏の戦いのなか、公領や荘園の経済的基盤を失い権力の座を武士に渡すこととなった。戦乱の中で生まれた鎌倉幕府の時代は、末法思想に説く世の諸相と現実とが合致し、人々の不安のなかで真剣に新たな仏の模索が始まった。一方、この源氏による武家政権の安定は、当面は「地獄」がなくなるというところで、武士の間では地藏尊は急速に

その信仰を失っていった。身代わり地藏や矢拾い地藏に代わって地藏への信仰は、具体的な現世利益をもたらすものとして農民たちへ引き継がれていた。そして身体の痛みや罹患の苦しみなどから逃れる手助けの菩薩として、また地藏には死者の極楽浄土への道案内を託すものでもあった。しかし生者としての人々の心(魂)の救いは法然から、親鸞、一遍などの新興仏教者の説く新しい「阿彌陀」の登場を待たねばならなかつた。活発化した経済のなか、中世の様々な職層や為政者たちに応える栄西、道元や日蓮の新仏教者の出現とは別に、農民たちの苦しい日々の中で地藏信仰が土着化し敬愛されてゆく。野辺の各所には石造りの地藏が置かれはじめた。

長い戦乱の世が終わり、近世になって、農耕の発展と共に地藏尊は各地にある産土の神々に垂迹し、安産、子安、子育て、延命地藏などになった。とくに子供の守護神として篤く信仰されるまでになる。そして地藏さんは都市化と共に、町々の木戸毎に安置されて人々に敬愛され信仰を集めた。地藏会は24日を緑日として、京都では8月22-23日に行われている。

地藏さんは、インドのグツダ以前のバラモンの産土神であつたという。速くて永い時間と空間を経て今日の京都に生きている。(林 義夫)



(志賀越道、白川口の子安観世音石像と地藏たち)

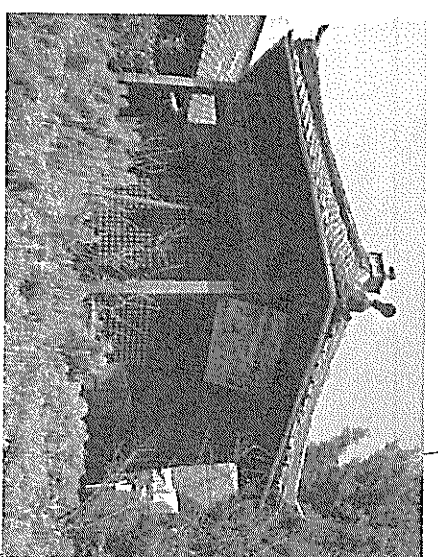
地藏名	寺院名/所在地	街道名/植の色
伏見六地藏	浄土宗 法雲山大善寺 伏見区桃山西町六地藏	奈良街道 白
鳥羽地藏	浄土宗 恵光山淨禅寺 南区上鳥羽岩ノ本町	西国街道 (大坂街道) 黄
桂地藏	浄土宗 久遠山地藏寺 西京区桂春日町	丹波街道 (山陰街道) 緑
常盤地藏	臨済宗 常盤山源光寺 右京区常盤馬塚町	周山街道 白
鞍馬口地藏	浄土宗 千松山上善寺 北区鞍馬口通り寺町	鞍馬街道 赤
山科地藏	臨済宗 柳谷山徳林寺 山科区四ノ宮泉水町	東海道 青

# 六地藏巡りマップ

## ■源光寺のお地藏さん

大泉映画村の近く、花園から嵯峨へ至る旧下立売通沿いにある源光寺は、地藏信仰の霊場であり、六地藏巡りの結願寺でもある。弘仁2年(811)嵯峨天皇の皇子で臣籍降下した源常(みなもとのときわ)を開基と称している。民間信仰の霊場として宗教宗派に関係のなく多くの人々の崇敬を集めている。

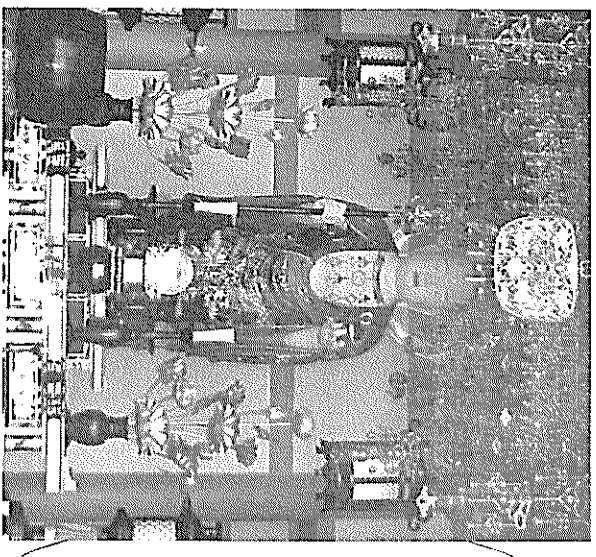
また、常盤地藏は「乙子地藏」と呼ばれている。乙子とは末子の意味で、六体の地藏の中で一番小さく優しい表情をさ



源光寺 / 六角堂

## ■地藏寺のお地藏さん

本尊は地藏菩薩。平安時代、桂大納言源経信の別荘の薬師堂に安置されていた石造薬師如来が、後年祀られて寺にされたといわれる。この像は9月8日の薬師盆に開帳される。一本の桜の木から刻まれたと云わる六地藏尊像の中で、最下部から刻まれた桂地藏尊像は身の丈2.6mと最大で、別名「姉井地藏」と呼ばれる。彩色鮮やかで、左手に宝珠を、右手に錫杖を持って微笑んでおられるのが印象的。現在は桂六斎念仏は休止中とのこと。



地藏寺 / 地藏菩薩

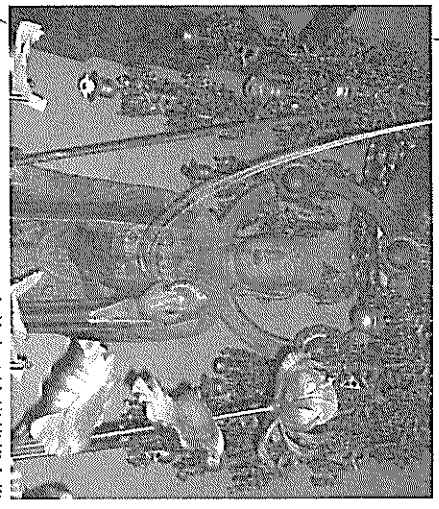
## ■八百年の伝統行事 京の六地藏巡り

六地藏の起こりは文徳天皇の仁寿2年(852)、従三位小野篁が木幡山の桜の木を切り出して、六体の地藏菩薩を刻んだことに始まると言われる。小野篁が嘉祥2年(849)48歳の時に大病を患い、仮死状態となった時、地獄に墮ちた人々を一人の比丘がその人々の苦難を救っている場に出会った。ごく普通の僧衣を纏った円頂の比丘は、自らを「地藏菩薩」と名乗り、「六道の迷いの世界から縁ある人々を救っているが、無縁の人々を救うこと難し」と嘆いた。貴方は「この地獄の苦しい有様と、地藏菩薩のことを人々に知らしめてほしい」と語った。幸い甦ることが出来た小野篁は六道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上の六つを言う)をくまなく廻り、人々を救うために六体の地藏菩薩をこの地に安置したと伝えられている。

その後保元2年(1157)後白河法皇の勅命により、平清盛が西光法師に命じて、京都の街道の入り口6ヶ所に六角堂を建て、一休ずつ御尊像を分置された。最初に六地藏巡りをしたのが西光法師と言われている。現在は毎年8月22日より23日に罪障消滅、家内安全、無病息災、家運繁栄の祈願を込めて昼夜巡拝する。(吉村 浩)

## ■上善寺のお地藏さん

貞観5年(863)に、円仁和尚により天台密教の道場として千本今出川附近に建立。本尊は阿彌陀如来。文明年間に春谷盛信上人により再興。文禄3年(1594)現在地の鞍馬口寺町東に移る。その後、浄土宗に改宗した。端整な伽藍である。8月22、23日の六地藏巡りの日には、六斎念仏も奉納され賑わう。地藏堂に安置の地藏菩薩立像は京都六地藏の一つではあるが、いずれも一本の桜から六体彫られたというのは伝承。



上善寺 / 地藏菩薩立像

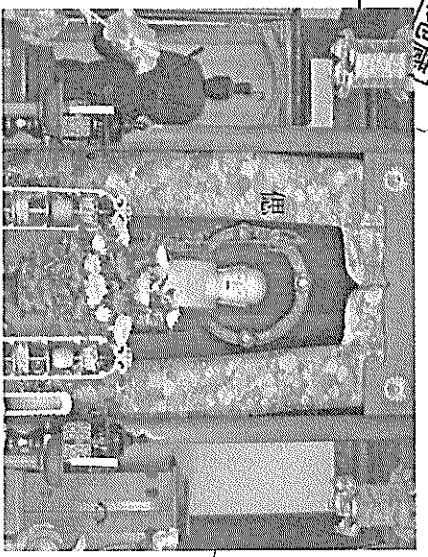
## ■徳林庵のお地藏さん

本尊は地藏菩薩。仁明天皇の第四の宮の人康(さねやす)親王が出家し隠棲した地に、その菩提を弔うために親王の子孫の南禅寺雲英正怡禅師が天文年間(1532~1555)に創建。親王が盲目で琵琶の名手であったことから、江戸時代には、座頭に崇敬され琵琶法師が毎年奉納演奏に集まったと伝える。地藏尊像を祀る六角堂は8月22、23日に開扉され、色鮮やかな地藏尊が拝観できる。

## ■大善寺のお地藏さん

慶雲2年(705)に定慧により創建。後に、小野篁が木幡山の一本の桜の大木から六体の地藏尊像を刻み、安置したと伝わる。地藏菩薩は近年彩色も新たにされ美しい面立ちである。天台宗の寺院として中興されたが、現在は浄土宗。静かで古雅な境内にどっしりとした鐘楼と双樹の青松が映える。鐘楼は東福門院により寄進されたもの。天井に描かれた菊と三つ葉葵の紋章に幕府と朝廷の融和を願った東福門院の心情が

に幕府と朝廷の融和を願った東福門院の心情が



大善寺 / 地藏菩薩

## ■浄禅寺のお地藏さん

六地藏の一つ鳥羽地藏として古くから知られた浄土宗の寺。寿永元年(1182)に文覚上人が契機御前の菩提を弔って開創したと伝わり、供養の五輪塔と恋塚碑がある。山門正面、六角円堂の地藏堂の地藏菩薩は、大善寺の根本地藏とそっくりのおだやかなお姿。最近修理がなされた観音堂にある、十一面観音像もぜひ拝観したい。境内の大楠は長い年月、野中の道を来る巡拝の人の目印となってきた古木である。芳香を放つという。

